

# 上士幌町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

上士幌町においては、令和4年9月までは、十勝バス（株）、北海道拓殖バス（株）で各2系統計4系統が運行され、このほか、民間事業者によるタクシーの運行、町独自の取組として、町内の高齢者等を対象とした「高齢者等福祉バス」を運行してきた。

これら交通機関により、高齢者や学生をはじめとする町民の町内外への移動の足を確保してきたが、特に町内移動については、高齢者等福祉バスの対象外となる生産年齢人口等の町民は、十勝バス（株）及び北海道拓殖バス（株）の幹線交通でしか移動できない状況下であり、上士幌町に住み続けられる環境整備に向け、生産年齢人口等の町民の移動の足が急務となっていた。

これら諸課題の解決方針として、上士幌町では、令和3年3月に上士幌町地域公共交通計画を策定しており、令和3年度から解決方策の具体化を行ってきた。

本計画の方向性の1つである「利便性のたかい町内交通の実現」に向け、「事業①利用者意向を踏まえた市街地循環バスの運行」として、運転手及び車両等のリソースの効率化に向け、これまで高齢者等の対象を限定していた「高齢者等福祉バス」の「市街地便」について、一般町民等も利用可能なように、対象者の枠を拡大及び有償化し、「市街地循環バス」として運行することで、より便利な移動環境を構築することとした。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- 目標① 市街地循環線の利用者数を3,300人以上とする。
- 目標② 市街地循環線の収支率を0.02%以上とする。
- 目標③ 市街地循環線への公的資金投入額を897万円/年以内とする。

## 令和6年度事業概要

運行系統名：（1）市街地循環バス①  
（2）市街地循環バス②  
（3）市街地循環バス③

運行区間：（1）交通ターミナル～交通ターミナル～はげあん診療所東側  
（2）はげあん診療所東側～交通ターミナル～はげあん診療所東側  
（3）東地区集会所前～交通ターミナル～生涯学習センター前

運行回数：（1）3回/日、462回/年  
（2）1回/日、154回/年  
（3）1回/日、154回/年

運賃：【共通】100円/回

## 地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)  
上士幌線、ぬかびら線
- ・北海道拓殖バス(株)  
上士幌線、音上線
- ・上士幌タクシー(有)
- ・コミュニティバス  
高齢者等福祉バス、市街地循環バス（令和4年10月から運行）
- ・スクールバス（6路線）

## 協議会開催状況

令和6年06月28日（金） 第1回協議会開催  
生活交通確保維持改善計画の変更及び活用に係る協議・合意

令和7年01月24日（金） 第2回協議会開催（書面開催）  
地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

# 令和6年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

### ■本格運行までのプロセス

- ・令和4年9月まで、高齢の方や障がいのある方を対象とした「高齢者等福祉バス」として運行してきた。
- ・令和4年10月から市街地内の子育て世代や町来訪者等の一般の方の足の確保に向け、利用者枠を「高齢の方や障がいのある方」から、「一般の方」に拡大をし、市街地循環バス（有償）として運行を開始した。

### ■令和6年度創意工夫

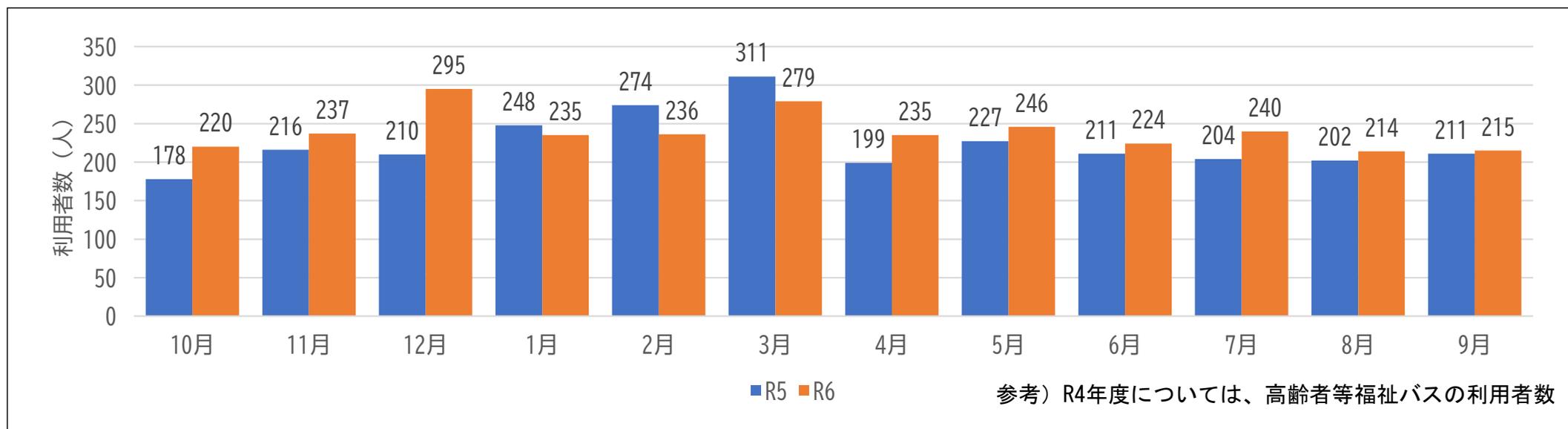
#### ●利用者等ニーズ把握調査の実施

- ・市街地循環線等の町内公共交通の継続的な見直しに向け、利用者等を対象としたニーズ把握アンケート調査を実施しており、この調査結果を踏まえ、市街地循環線等の運行ルート等のサービス水準を見直しを検討予定。

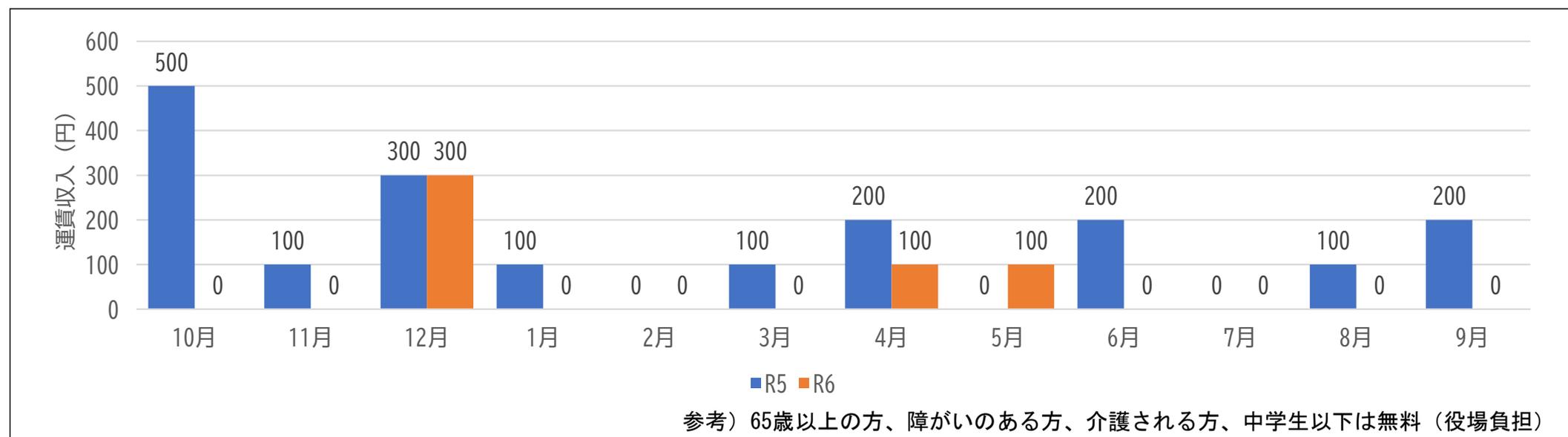
## 2) 運行系統



### 3) 利用実績 (1日当たり利用者数18.7人/日)



### 4) 収入実績 (現金0.05万円)



## 5) 事業実施の適切性

○市街地循環バス①・②・③：計画通りに適切に実施されている。

## 6) 目標・効果達成状況

目標① 市街地循環線の利用者数を3,300人以上とする。

実績：2,879人（達成度：87.2%）

評価：利用状況として、これまでの高齢者等福祉バスを利用してきた高齢者等については、令和5年度との差は185人/年の増加となったものの、乗車を見込んでいた一般の方の利用が非常に少ない結果であった。

目標② 市街地循環線の収支率を0.02%以上とする。

実績：0.0056%（達成度：27.9%）

評価：市街地循環線の利用者数は、令和5補助年度よりも増加したものの、一般の方の利用は低迷しており、収支率も低調に推移した。

目標③ 市街地循環線への公的資金投入額を897万円/年以内とする。

実績：895万円/年（達成度：100.2%）

評価：交通事業者との継続的な協議・協力により、運行経費が抑制されており、今後も継続的な協力を得られるよう、協議を重ねていく。

## 7) 事業の今後の改善点

- 利用者数について、コロナ禍以前までは戻っていない状況であり、高齢者等の利用のみならず、さらに一般利用を促す必要がある。そのため、対象者別の周知パンフレットを活用し、様々な団体等への周知活動を実施し、利用者の増加を目指していく。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果

（令和7年度分と併せて評価）